

1. 科目名 (単位数)	小児保健特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5321						
2. 授業担当教員	横田 俊平・佐野 葉子								
4. 授業形態	講義および文献講読、討論	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	特になし	履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	<p>小児期は出生から成人になるまでの期間である。この時期は常に成長、発達を続けていることが特徴である。受精から出生に至るまでにほとんどの臓器が完成されてきていることから、この出生前期を小児科学では「出生前小児科学」として重視している。したがって、出生前期、小児期 (新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青少年期) の成長・発達過程において出現する種々の健康課題 (出生前期の成長・発達障害と先天異常、新生児・乳児期の母乳哺育、感染症とその予防対策、疾病とその対処法、事故防止と安全教育、「こころ」の病気と心身症など) について、母子保健学的立場から知識を整理する。さらに、わが国の母子保健行政施策の変遷について学ぶと同時に、今後の課題について討議し理解を深める。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前期の成長・発達の基礎的な知識について説明することができるようになる。 2. 小児期の成長・発達が、生活習慣病に影響を及ぼしていることを解説することができるようになる。 3. 「母乳哺育 (Breastfeeding)」が母子保健学的に極めて大切であることを発表することができるようになる。 4. 感染症法の類型及び学校で予防すべき感染症について説明することができるようになる。 5. 事故防止と安全教育について説明し、実践することができるようになる。 6. 子どもの保健・医療、福祉、教育の連携の現状を分析し、今後の方向性を示すことができるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題: [各宿題は、A4 判、横書き、明朝体 10.5 ポイント、2 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて下さい。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 睡眠とメラトニンの関係について; (「テーマ5」終了時点でレポートを提出する) 「早寝、早起き、朝ごはん」がすすめられているが、十分な効果はあがっていない。この生活リズムについて考えをまとめてみましょう。 2) 消化酵素の種類とその役割について; (「テーマ8」終了時点でレポートを提出する) 消化器系の各々の器官から分泌される消化酵素の種類は沢山あります。各々の役割についてまとめてみましょう。 <p>レポート課題: [各レポートは、A4 判、横書き、明朝体 10.5 ポイント、3 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて下さい。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出生前期における成長・発達上の諸問題について記述してください。(「テーマ4」終了時点でレポートを提出する) 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 巷野悟郎監修 日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識』第 8 版改訂 日本小児医事出版社、2013</p> <p>【参考書及び参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生統計協会編『国民衛生の動向』65(9) 2018/2019 2. American Academy of Pediatrics Policy Statement. Breastfeeding and the Use of Human Milk. Pediatrics 129(3):e827-e841. 2012 3. 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007 4. 大島 清著『成長する脳の不思議』第三文明社、2002 5. 山寺博史著『メラトニンと睡眠 治療』81(1):11-15、1999 6. 田中哲郎著『新子どもの事故防止マニュアル』診断と治療社、2007 7. 内山聖監修、原寿郎、高橋孝雄、細井創編集『標準小児科学第 8 版』医学書院、2013 <p>随時プリントを配布する</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 出生前期、小児期の成長と発達を理解し、説明することができること、母乳哺育の重要性や感染症の予防、事故防止と安全教育について説明することができることが求められている。 レポート課題、宿題を評価の基準とする。</p> <p>○評定の方法 (通学課程)</p> <table border="0"> <tr> <td>レポート課題</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>宿題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>10%</td> </tr> </table>			レポート課題	50%	宿題	40%	受講態度	10%
レポート課題	50%								
宿題	40%								
受講態度	10%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>ヒトは哺乳類の一員である。当然のことながら、他の哺乳類と同様に出生直後から「母乳」で哺育されるべきであるが、人間世界では、なかなかそのようにはいっていない。出生時の母乳栄養か人工栄養かの対応の差によって、成人になって様々な健康問題を惹起してくることが明らかになってきた。「こころ」と「からだ」の健全育成をはかるという長期的目標からみれば、小児期はまさにその土台づくりの時期である。この時期の重要性・大切さについて理解を深めてほしい。</p>								
13. オフィスアワー	授業内で周知する								
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】								
1～2. テーマ	小児の発育過程 (1) 子宮内環境と胎児の成長・発達 (佐野)								

	<p>【学習の目標】 母体内では、受精から着床、胎芽期、胎児期というめまぐるしい変化を経過して、一個の人間が誕生してくる。その各々の発育・発達段階について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 受精から着床までの経過について学ぶ。 2) 着床から出生までの経過について学ぶ。 3) 胎内での胎児の行動について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 胎芽期、胎児期、臨界期、催奇形因子、先天異常</p> <p>【学習の課題】 1) 環境が胎児に及ぼす影響について 2) ヒトの発生における臨界期について 3) 先天異常の分類について</p> <p>【参考文献】 大島 清著『成長する脳の不思議』第三文明社、2002</p> <p>【学習する上での留意点】 小児科では、受精から出生までを「出生前小児科学」とし、産科では、「胎児学」として、ともに重視している領域である。子宮内での胎児の成長、発達がどのような順序で進行してゆか考えてみよう。</p>
3～4. テーマ	小児の発育過程（2）五感の発達（佐野）
	<p>【学習の目標】 出生前および出生後における五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）の発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 子宮内での五感の発達について知識を整理する。 2) 出生後の五感の発達について知識を整理する。</p> <p>【キーワード】 五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）、子宮内環境</p> <p>【学習の課題】 1) 聴覚の発達について述べよ。 4) 味覚の発達について述べよ。 2) 視覚の発達について述べよ。 5) 触覚の発達について述べよ。 3) 嗅覚の発達について述べよ。</p> <p>【参考文献】 大島 清著『成長する脳の不思議』第三文明社、2002</p> <p>【学習する上での留意点】 子宮内で胎児の五感はかなりのところまで成長・発達していることを再認識しよう。</p>
5. テーマ	小児の発育過程（3）生体リズムの確立——睡眠、覚醒、光環境——（横田）
	<p>【学習の目標】 生体リズムの確立について知識を整理し、解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 生体リズムについて学ぶ 2) 睡眠の発達のプロセスについて学ぶ。 3) メラトニンと睡眠との関係について知識を深める。</p> <p>【キーワード】 メラトニン、サーカディアンリズム、REM睡眠、non-REM睡眠</p> <p>【学習の課題】 1) サーカディアンリズムについて述べよ。 2) REM睡眠とノンREM睡眠について述べよ。 3) メラトニンについて述べよ。</p> <p>【参考文献】 山寺博史著『メラトニンと睡眠 治療』81(1):11-15、1999</p> <p>【学習する上での留意点】 十分な睡眠をとることは、健康の保持・増進の上からも大切なことである。睡眠とメラトニンの関係を理解して、日常生活で実践してみよう。</p>
6. テーマ	小児の発育過程（4）中枢神経系の成長・発達（横田）
	<p>【学習の目標】 中枢神経系の成長・発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 脳神経細胞の種類と数について学ぶ。 2) 右脳優位脳、左脳優位脳、バランス脳について学ぶ。 3) 出生後の脳の発達はどのように行われるか知識を深める。</p> <p>【キーワード】 DHA、アポトーシス、脳神経細胞、髄鞘化</p> <p>【学習の課題】 1) 脳神経細胞の種類と数について論述せよ。 2) DHAと髄鞘化の関係について論述せよ。 3) 出生後の脳の発達と髄鞘化について論述せよ。</p> <p>【参考文献】 大島 清著『成長する脳の不思議』第三文明社、2002</p> <p>【学習する上での留意点】 出生時に新生児の大脳新皮質には、すでに140億個の神経細胞があり、その後のネットワーク化が重要であることを理解しよう。</p>
7. テーマ	小児の発育過程（5）呼吸・循環系の成長・発達（横田）
	<p>【学習の目標】 子宮内の生活から子宮外の外界へ環境が変わるため、呼吸も循環もすばやく適応していかなくてはならない。その適応について学ぶと同時に、適応障害についても理解を深め、解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 呼吸器系の発育・発達について学ぶ。 2) 循環器系の発育・発達について学ぶ。 3) 胎児循環と成人循環の相違を理解し、知識を深める。</p> <p>【キーワード】 サーフアクタント、第一呼吸、胎児循環、ボタロー管、卵円孔</p> <p>【学習の課題】 1) 呼吸器系の形態的発育について述べよ。 2) 循環器系の形態的発育について述べよ。 3) 肺胞細胞とサーファクタントの関係について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 内山聖監修、原寿郎、高橋孝雄、細井創編集『標準小児科学第8版』医学書院、2013</p> <p>【学習する上での留意点】 出生後に胎児循環から成人循環にかわる機序を理解することは大切である。</p>
8. テーマ	小児の発育過程（6）消化器、内分泌・代謝、泌尿器の成長・発達（横田）
	<p>【学習の目標】 消化器、内分泌・代謝、泌尿器の成長・発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 消化器系の成長・発達について学ぶ。 2) 腸内細菌叢の意義について知識を深める。 3) 内分泌・代謝の成長・発達について学ぶ。 4) 泌尿器系の成長・発達について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 羊水、腸内細菌叢、ホルモン、標的臓器、腎機能、消化器、泌尿器</p>

	<p>【学習の課題】 1) 三大栄養素に対する消化酵素の種類とその役割について述べよ。 2) 腸内細菌叢の形成とガス産生との関係について論ぜよ。 3) 脳下垂体から分泌されるホルモンとその役割について論ぜよ。 4) 腎臓機能について述べよ。</p> <p>【参考文献】 内山聖監修、原寿郎、高橋孝雄、細井創編集『標準小児科学第8版』医学書院、2013</p> <p>【学習する上での留意点】 口から肛門までの消化器系の図を描いて、消化・吸収のメカニズムを理解し、習得しておくことは大切である。</p>
9～10.テーマ	母乳哺育の意義（佐野）
	<p>【学習の目標】 母乳哺育（Breastfeeding）の意義について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 母乳哺育と母乳栄養との違いについて学ぶ。 2) 母乳中に含まれている成分について学ぶ。 3) 母乳育児を成功させるための10か条を説明し、その内容を理解する。 4) 母乳哺育推進運動を阻害している要因について列記してみよう。</p> <p>【キーワード】 母乳哺育、完全母乳栄養、分泌型免疫グロブリンA（S-IgA）</p> <p>【学習の課題】 1) 母乳中に含まれている感染防御物質について 2) 母乳哺育推進運動について 3) 母乳哺育の長所、短所について</p> <p>【参考文献】 American Academy of Pediatrics 2012 Policy Statement. Breastfeeding and the Use of Human Milk. Pediatrics 129(3): e827-e841</p> <p>【学習する上での留意点】 母乳で子どもを育てていることを母乳育児、母乳哺育、母乳保育、母乳栄養と、医療関係者も母親たちも自分の都合の良いように解釈して使っている。母乳哺育という意味をもう一度考えてみよう。</p>
11.テーマ	感染症とその予防対策（横田）
	<p>【学習の目標】 小児期によくみられる感染症、ことに発疹を伴う感染症について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 小児期によくみられる感染症の種類について学ぶ。 2) 感染症発生時の公衆衛生的対策について理解を深める。 3) 感染症法、予防接種法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 感染症法、学校で予防すべき感染症の登園（登校）停止基準、定期予防接種、任意予防接種</p> <p>【学習の課題】 1) 小児期にみられる発疹性感染症について述べよ。 2) 学校で予防すべき感染症の登園（登校）停止基準について解説せよ。 3) 感染症の種類を感染症法の感染症類型で分類し、解説せよ。 4) 定期予防接種と任意予防接種との違いを述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 内山聖監修、原寿郎、高橋孝雄、細井創編集『標準小児科学』医学書院、2015 2) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007</p> <p>【学習する上での留意点】 感染症が集団発生したとき、公衆衛生的にどのような対策を立ててゆくか？ 代表的な病原体について、対策を立てて実践し、知識を共有しよう。</p>
12.テーマ	事故と安全教育（佐野）
	<p>【学習の目標】 事故防止と安全教育について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 小児期にみられる事故の種類を発達段階から考えてみよう。 2) 事故とその応急処置について学び、実践する。 3) 安全チェックシートについて理解し、実践する。 4) チャイルドシートの種類と安全性について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 安全チェックシート、救急処置、事故、安全教育</p> <p>【学習の課題】 1) 小児期にみられる事故の種類と応急処置について論ぜよ。 2) 安全チェックシートについて解説せよ。 3) チャイルドシートの種類とその取り扱い方について述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 田中哲郎著『新子どもの事故防止マニュアル』診断と治療社、2001 2) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007</p> <p>【学習する上での留意点】 事故を完全に防ぐことは出来ない。いかに事故を起こさないように予防してゆくか考えてみよう。</p>
13.テーマ	母子保健行政施策（1）歴史の変遷（横田）
	<p>【学習の目標】 母子保健行政施策の歴史の変遷について説明することができる。</p> <p>【学習の内容】 母子保健行政施策の歴史の変遷について学ぶ。</p> <p>【学習の課題】 1) 母乳哺育推進の施策がその時々の社会情勢によっていかに変遷したか、実例を挙げて論ぜよ。 2) 健康診査と母子健康手帳についてその役割について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 1) 厚生統計協会『国民衛生の動向・厚生指標』65(9) 2018/2019 2) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の母子健康手帳の内容から、自分が育った頃の時代背景を考えてみよう。</p>
14.テーマ	母子保健行政施策（2）「健やか親子21」について（横田）
	<p>【学習の目標】 母子保健行政施策の一つである「健やか親子21」について学習し、説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 「健やか親子21」の概要について学ぶ。 2) 「健やか親子21」の実施結果について解説する。 3) エンゼルプランや新エンゼルプランとの違いについて学ぶ。 4) 子ども・子育て応援プランについて学ぶ。</p> <p>【学習の課題】 1) 「健やか親子21」の概要について論ぜよ。 2) エンゼルプランや新エンゼルプランの内容について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 1) 厚生統計協会『国民衛生の動向・厚生指標』65(9) 2018/2019</p>

2) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007
【学習する上での留意点】 今日までに実施された母子保健行政施策について、その特徴をまとめてみよう。

15. テーマ 母子保健行政施策(3) 保健・医療・福祉・教育の連携(横田)

【学習の目標】 母子保健行政施策を遂行する上で、保健・医療・福祉・教育の連携は欠かせないことである。この連携のあり方について説明することができる。

【学習の内容】 保健・医療、福祉、教育の連携の方法について学ぶ。

【学習の課題】 1) 保健・医療、福祉、教育の連携の必要性について論ぜよ。
2) 保健・医療、福祉、教育の連携を円滑に機能させるための方策について解説せよ。

【参考文献】 1) 厚生統計協会『国民衛生の動向・厚生指標』65(9) 2018/2019
2) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』2007

【学習する上での留意点】 認定こども園の制度について考えてみよう